(5) 歴史と文化教育部会

教育部会名	歴史と文化
部会長名／作成者名	古市 晃
概要 (2 ページ)	
<p>(1) 組織・運営</p> <p>(1-1) 部会構成</p> <p>本年度の歴史と文化教育部会も例年と同様、人文学研究科・国際文化学研究科・人間発達環境学研究科の教員によって構成され日本史・西洋史・東洋史・アジア史・美術史・芸術史・科学史・考古学の各授業を提供した。</p> <p>(1-2) 実施体制：部会長、ならびに部会長が所属しない2研究科から選出された幹事が実施の任に当たった。ただしこれまで人文・発達・国文の3研究科とその所属教員および3研究科から幹事を選出、運営されてきたが、発達・国文については1年交代の幹事選出となった。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <p>(2-1) 開講科目：</p> <p>シラバスに見る通り、歴史と文化教育部会が扱う対象は、時代についても、地域についてもきわめて多岐に亘り、多様性に富んでいる。とくに狭義の歴史学のみならず、美術・芸術・科学技術・政治経済に関わる事象の歴史的側面を主題にした授業科目を用意できている点が特徴である。2025年度からは高校の社会科必修科目となった「歴史総合」を受講した学生が入学するが、これらの対応について、現状で必ずしも議論が共有されているわけではないが、十分に対応可能と考えられる。</p> <p>このように、本教育部会が提供する教育内容は、各教員の多様かつ学際的な研究テーマを反映しており、学生のさまざまな関心やニーズに応えるものとなっている。このことは特に、本学のグローバル人材育成推進事業が達成目標として掲げる二つの課題、すなわち、「多様な価値観を尊重する」、「異文化・日本文化を深く理解する」という課題を身につける上でも、効果的なカリキュラムを提供しているものと自負する。</p> <p>(2-2) 教育方法：</p> <p>授業の形態は講義形式が中心である。授業振り返りアンケートの回答は概ね、授業の内容が有益であったとするもので、授業に対する高い満足度を示している。教員の側においても、アンケート結果に付せられたコメントや感想欄を十分に活用して、学生のニーズに応えるような授業改善を試みる姿勢が顕著である。</p> <p>(2-3) 今年度の工夫・改善点：</p> <p>本年度の歴史と文化教育部会の授業は、「遠隔型授業」を有効に活用しつつも、基本的には対面講義を中心に展開した。その際、これまで授業前後の時間やオフィスアワーを使った質疑応答を、BEEF+のチャット・小テスト・フォーラム・アンケートといった機能によって代替する方法にも、各教員がかなり習熟し、学生の多様なニーズに対応できたことが、授業振り返りアンケートの統計結果、ならびに自由記述から明らかになった。</p> <p>(2-4) 現状と評価：</p> <p>歴史と文化教育部会の共通目標については、一般教養科目としての歴史に関わる講義の意義を各教員が良く理解し、適切な授業運営がなされているのが現状である。他方、コロナ禍で導入されたオンライン授業形式から対面に切り替わることで、学生のニーズを踏まえながらも、教育効果という観点から適宜、遠隔を取り入れることで、新しい授業形態への対応や選択について適切な対応が可能となった。成績評価の公正性について</p>	

も、授業振り返りアンケートなどを活用したフィードバックが十分になされている。その結果として、学修目標に見合う適切な学修成果が得られている。

(3) 課題について

対面講義が主流になったことで、「遠隔型授業」で培われた諸メリットをどう活かしてゆくか、学生のニーズもふまえながら議論を深めることが、歴史と文化教育部会としての課題である。

他方、高等学校の歴史系の科目は、2022年度からの「歴史総合」教科書が出揃ったことにつき、2023年度からは「日本史探究」「世界史探究」教科書が使用される。これらは学習指導要領に示された歴史教育の新たな目標、すなわち、史資料・図象・映像などを駆使した歴史的事象の総合的な理解と学修という目標を掲げたものであり、高校教育が大幅に変更されていくなか、大学の共通教育の中での確に継承・発展させてゆくかという課題を、合わせて考えてゆく必要がある。「遠隔型授業」にさまざまな工夫を加え、映像や音声を組み合わせた多様な教材を学生に提供し、チャットやフォーラムといった BEEF+の機能を使った双方向授業を組み立ててゆく中で、対面型授業との相乗効果を期待できるような授業形態を、歴史と文化教育部会として探求していく必要があるだろう。

(4) 総合所見

以上、適切な部会運営に努めた結果、科目の多様性を維持しつつ効果的な教育体制を維持することができた。オンラインの利点も取り入れつつ、学生とのコミュニケーションも概ね良好に行うことが可能となっている。ただそれを今後継続するために適切な教員数が確保できているわけでは、かならずしもない。先に述べた高等学校での歴史系科目の改革と大学での共通教育の接点を、より順調に行いつつ、新たな課題に対応するためにも、退職した構成員の補充や非常勤講師卒の増加などの対応が必要な時期にさしかかっていると考える。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100字程度）

人文・発達・国文の3研究科とその所属教員および3研究科から幹事を選出、適切に運営されてきたが、特に多くの科目を毎年担当してきた発達・国文の退職者に新任の充足が間に合っていない。人文でも教員不補充の期間が5年に達するなど、現状を維持するのが困難になっている。すでに部会長と幹事は兼任しており、現行の3研究科3幹事の組織運営が難しいことは明らかである。

根拠資料

教育部会構成員名簿、メールでの連絡

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100字程度）

内部質保証のための取組を教育部会として組織的に行うための取り組みとして、授業振り返りアンケート結果を行い、教員各自がそれぞれの担当授業科目に十分に反映させる努力を続けている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150字程度）

前年度までの評価報告書や自己点検を踏まえ、各教員が、シラバス・期末課題・小テストの改善、修正といった措置を講ずることで、計画された取組を進捗させている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか（100字程度）

ピアレビューを実施し、そこでの討論から授業内容・方法の改善を図るというプロセスを重視している。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（教養教育委員会資料）

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100字程度）

実施している。「遠隔型授業」も一部残しつつ、教育支援者や教育補助者の雇用が教育効果の観点から一部認められた。

根拠資料

神戸大学 SA/TA 実施要領・ガイドライン、SA・TA 採用者名簿、TA ハンドブック

C教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100字程度）

各教科の授業の目標は、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっている。

根拠資料
シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100字程度）

各授業担当者は、シラバスの到達目標の中で、共通目標や学部からの要請を考慮しながら、到達目標をそれに沿ったものに工夫改善する配慮を行っている。

根拠資料
シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100字程度）

各授業担当者は、シラバスの到達目標の中で、共通目標や学部からの要請を考慮しながら、到達目標をそれに沿ったものに工夫改善する配慮を行っている。

根拠資料
シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか（100字程度）

授業科目の内容は、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料
シラバス、小テスト、レポート課題

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

講義、演習の授業形態の組み合わせ・バランスを適切に図り、各教科の教育目標に照らしながら、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされている。

根拠資料
シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準

備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

シラバスには、上記の全項目が記載されている。

根拠資料
シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

学生のニーズを双方向性に配慮してくみあげつつ、履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われている。

根拠資料
シラバス

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

BEEF+のチャット・小テスト・フォーラム・アンケートといった機能を使って、学習相談の体制を整備することで、学生に対する適切な指導、助言がなされている。

根拠資料
シラバス

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

科目単位で、成績分布を検証し、分布の状況が適正であるか否かの確認を行なっている。他方、適正でない場合は、当該科目の担当者に、分布を適正なものに改善する教学上の方法を提出するよう求めている。

根拠資料
シラバス、試験答案、成績分布（教養教育委員会資料）

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

レポートなどのコメント欄や授業振り返りアンケート結果を通じて、適切な学修目標が得られているかどうかを確認している。

根拠資料
試験答案、レポート、授業振り返りアンケート結果